

横浜市版「子育て世代包括支援センター」について

～妊娠期から生後4か月までの子育て支援をさらに手厚く応援します！～

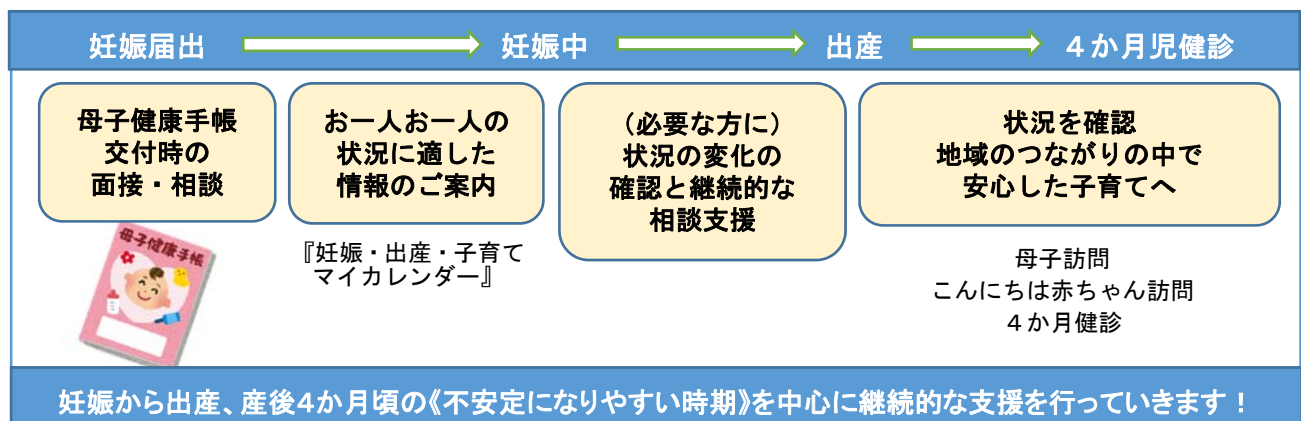
1 横浜市版「子育て世代包括支援センター」について

区こども家庭支援課に新たに**母子保健コーディネーター**（保健師・助産師・看護師いずれかの資格をもつ専門職）を配置し、妊娠期から生後4か月までを中心に妊産婦や子育て家庭の状況把握を行い、個々の家庭状況に沿った相談を行います。

この取組を通じて、妊娠期から手厚いサポートを行い、育児への不安や負担感等を早めに把握し、支援に繋げ、安心して出産・子育てができるよう応援します。

なお、泉区はモデル区[※]として、横浜市版「子育て世代包括支援センター」を先行して実施します。

※ 平成29年度のモデル区は、南区、都筑区、泉区の3区



2 主な取組について

次の内容を段階的に実施していく予定です。

- (1) 母子健康手帳交付時に、母子保健コーディネーターが妊婦お一人お一人と面接を行い、体調や心配事、お困りの事などをお聞きします。
- (2) 「妊娠・出産・子育てマイカレンダー」を妊婦と一緒に作成しながら、妊婦健診の受診を勧奨し、妊婦の状況に適した母子保健サービス（母親（両親）教室、産前産後ヘルパー等）や地域の子育て支援情報（地域子育て支援拠点等）のご案内を行うことで必要なサービスを円滑に利用できるよう支援します。
- (3) 面接後もサポートが必要な妊婦には、電話や家庭訪問、お便り等で心身の状態や家族状況等を確認しながら助言を行い、その方に適した母子保健サービスの活用を促していきます。
- (4) 妊娠期～出産～産後4か月頃の不安や孤立感を抱えて不安定になりやすい時期に、母子保健コーディネーターが継続的に関わります。また、地域のつながりの中で安心して子育てができるよう、地域子育て支援拠点と連携して支援します。

3 開始時期(泉区)

平成29年8月1日開始予定（土曜開庁時の母子健康手帳の交付時面談も開始します）

【参考】横浜市が目指す『子育て世代包括支援センター』

区福祉保健センターこども家庭支援課と地域子育て支援拠点が双方の特色を生かしながら連携し、地域の特性に応じた「妊娠期から子育て期（おもに未就学児）にわたる切れ目のない支援」を提供する体制を整えていきます。

今回、モデル区3区の福祉保健センターに「母子保健コーディネーター」を配置することによって、妊娠期からの相談機能を強化し、横浜子育てパートナーをはじめとする地域子育て支援拠点事業と連携・協力することで、「横浜版子育て世代包括支援センター」として支援の充実を図ります。

